

### 資料3 内村鑑三が、娘ルツ子の葬儀直後に書いた詩

作成 2024-02-14 岡本雅幸

転載元：内村鑑三全集第19巻、岩波書店、P.46（神戸市立図書館蔵書）

我等は四人であった、  
而（しか）して今尚（な）お四人である、  
戸籍帳簿に一人の名は消え、  
四角の食台の一方は空しく、  
四部合奏の一部は欠けて、  
讃美の調子は乱されしと雖（いえど）も、  
而（しか）も我等は今尚お四人である。

我等は今尚お四人である、  
地の帳簿に一人の名は消えて、  
天の記録に一人の名は殖（ふ）えた、  
三度の食時に空席は出来たが、  
残る三人はより親しく成った、  
彼女は今は我等の衷（うち）に居る、  
一人は三人を縛る愛の絆（きずな）となった。

然し我等は何時（いつ）までも斯（か）くあるのではない、  
我等は後に又前の如く四人に成るのである、  
神の籥（らっぱ）の鳴り響く時、  
寝（ねぶ）れる者が皆な起き上る時、  
主が再び此の地に臨（きた）り給う時、  
新らしきエルサレムが天より降る時、  
我等は再び四人に成るのである。